

平成 3 1 年 第 8 回

江戸川区教育委員会定例会会議録

日 時：平成 3 1 年 4 月 2 3 日（火）午後 4 時

場 所：教育委員会室

教育長	千葉	孝
教育長職務代理者	古巻	勲
委員	上野	操
委員	蓮沼	千秋
委員	石井	正治

事務局	教育推進課長事務取扱		
	教育委員会事務局参事	柴田	靖弘
	学務課長	田島	勉
	指導室長兼教育研究所長	近津	勉
	学校施設担当課長	石塚	修
	統括指導主事	傳田	学

書記	教育委員会事務局		
	教育推進課庶務係長	岡田	隆史
	同 主査	志村	一彦

千葉教育長	<p>開会時刻 午後4時</p> <p>ただいまから、平成31年第8回教育委員会定例会を開催します。 本日は1名の方から傍聴の申し出がありますが、許可してよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
教 育 長	<p>それでは、傍聴人の方の入室を許可します。</p> <p style="text-align: center;">〔傍聴人入室〕</p>
教 育 長	<p>日程第1、署名委員を決定します。古巻委員と石井委員にお願いします。 続いて、日程第2、教育関係事務報告にまいります。 はじめに、教職員の人事についての報告にまいります。この報告事項は人事に関する案件であるため、江戸川区教育委員会会議規則第13条に定める秘密会により審議したいと思いますが、この発議に賛成の方は挙手をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">〔賛成者挙手〕</p>
教 育 長	<p>賛成多数と認めます。これより会議は秘密会となります。 傍聴の方は退出を願います。なお、秘密会終了後の再入室は可能となります。</p> <p style="text-align: center;">〔傍聴人退室〕</p> <p style="text-align: center;">〔秘密会〕</p> <p style="text-align: center;">〔傍聴人入室〕</p>
教 育 長	<p>続いて、いじめ電話相談についての報告をお願いします。</p>
近津教育研究所長	<p>それでは、いじめ電話相談（平成30年度3月分）についてのご報告を申し上げます。資料をごらんください。 いじめ電話相談3月1日から3月31日までの分は、月別相談件数の3月</p>

の欄、5件、7回でございました。これにより、30年度年間の合計は20件、24回となりました。

学齢別・男女別件数でございますが、小2男子が1件、小3男子、女子がそれぞれ1件、小4女子が1件、この1件は2回相談がございました。その他として1件、2回ございます。

相談の内訳としては、主訴別でございますが、こちらは主訴が複数にわたるため延べ数となりますが、暴力が3件、無視が1件、直接の言葉が5件、間接の言葉が2件、持ち物に関するいじめが2件、その他が2件、合計15件でございます。

電話をかけてきた者の別でございますが、母親からが4件、本人からが3件ということで、合計7件でございます。

学齢別主訴につきましては、そちら、ごらんのとおりでございます。

もう1枚おめくりいただきまして、30年度合計のいじめの件数が、ごらんのようになってございます。先ほど申し上げましたとおり、合計では20件、年齢別・男女別では、男子が10件、女子が9件、不明の者が1件の合計20件でございます。主訴別で分けますと、それぞれの主訴が合計されて50件ということで、学齢別主訴はごらんのようになってございます。

このうち、小学校3年生女子と4年生女子につきましては、本人が名乗っており、各教育委員会等々への連絡も構わないということでございますので、こちらのほうで聞き取り、学校等への対応等を行いました。

案件について簡単にご説明申し上げます。3年生女子についてでございますが、これは特定の1名の児童から悪口を言われるということでのいじめの相談でございます。これにつきましては、担当指導主事のほうから学校へも連絡をし、学校の対応をお願いいたしました。現在、このお子さんにつきましては、4月以降、学年も変わり、担任も変わり、学級編制替えもあって、全日出席をしてございます。特段、保護者からの訴え等も今のところはございません。

小4女子のケースでございますが、こちら昨年2月から継続して相談があったケースでございます。こちらにつきましては、友達同士の間での、いわゆる仲よしのグループの中で仲間外れにされたというようなことの訴えでございました。こちらについては、学校の対応、担任の対応等について保護者からの苦情、批判がございましたが、こちら主導主事が介入いたしまして学校への丁寧な対応を求めたところ、現在は学年が変わり、担任も変わりがちで、いいスタートを切っているということで、今後も引き続き、学校と連絡を密にとって対応していきたいというような保護者からの声がござい

	<p>ました。</p> <p>ご報告は以上でございます。</p>
教 育 長	<p>ただいまの件につきまして、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。</p>
上 野 委 員	<p>一番最後の欄に、高校生とその他というのが入っていますね。これはどう いうことなのですか。</p>
教育研究所長	<p>いじめ相談でございますので、電話相談の窓口にかけてきた内容が、高校 生からもあったということでございます。</p>
上 野 委 員	<p>区内かどうかはわからないのですか。</p>
教育研究所長	<p>それはわかりません。ただ、高校生につきましては、数としてはゼロとい うことで。その他は学年もわからない。</p> <p>その他の案件につきましては、内容から考えると小学生ではないかなとい うふうには思われます。鬼ごっこでいつも自分が鬼にされるということでご ざいます。</p>
古 巻 委 員	<p>いつもこういうところに話が出るのですが、電話でいじめの相談が来 るとするのは、必ずしもこの数が実際にあったものとは合致していないと。 氷山の一角のような形になってあらわれてくるのではないかなと、上野委員 からもよく指摘をされますけども。どうなのでしょう、3月というのは休み に入りますが、また、夏の休みとは違って学年が進級したり卒業したりの月 なので、何かその辺の季節的なものがあるのでしょうか。その辺、蓮沼委員 がよくご存じじゃないかなと思うのですけども。どうでしょうか。</p>
蓮 沼 委 員	<p>やはり、進級してとか、あるいは進級に対する不安とか、友達関係が変わ るとか、先生が変わるとか、そういったところでの不安というのは抱えてい ると思うのですね。友達関係も含めて。件数は少ないですけども、やっぱり こういう、いろいろ自分の思いを聞いてもらうところ、いろいろな受け皿が あることが、私は大事だと思います。</p> <p>各学校も教育委員会から連絡受けたりしますけども、数が多いとか少ない とかじゃなくて、しっかりそういう声を聞いてアンテナ高くして、その後ど う対応するか。そこのところが一番大事だと思うのですね。いじめの件数が</p>

	<p>多いのが悪いとかじゃなくて、そうやってアンテナ高ければ、件数が増えるということもあるので。現場のほうは、むしろそれでいろいろな解決に向けて、工夫してどう取り組むかというところに力を入れていただければいいのかと思うし。今、この前も東京都もネットとか、そういったところで相談件数増えています。それが最終的にはというか、究極的には自殺防止だとか、そういったところにつながれば一番いいですし。件数じゃなくてしっかりそれを、どう受けとめてあげて、子どもたちの気持ちを楽しにするかというところが大事なのかなというふうに考えています。ただ実際に、3月とか4月というのは、どうしても不安定なときですよ。</p>
上野委員	<p>おっしゃるとおりですよ。一つ質問的ですけども。一番最後の表を見ると、小学校の低学年は、数字が多いのが男の子。小学校の高学年で数字が多いのは女の子なのですね。これは偶然かどうかも知りませんが、何かそんなような傾向あるのですかね。横のほうを見ると、言葉というものが、5が一番多いというのがあるのですが。これに関連してね。</p>
教育研究所長	<p>全般的な傾向としてですけども、小学校低学年の場合は、やはりお互いのコミュニケーション能力がまだ高くないですので、例えば、言葉でではなくて行動で出てしまったり、あるいは、すぐ相手の嫌がるような行動をとってしまったりというようなことをして、逆に注目を浴びようと、そういうようなことが多くて、そういった子が低学年の場合、主にいじめ等々として拳がってくる場合が多ございます。高学年になりますと、今度は女子が、非常にグループが固定化してきますので、固定化したグループの中で、例えば、特定の友人、特定の親友というような友達を欲しがらる中で、例えば、仲間外れにしたとか、悪口を言ったとか、あの子があなたのことをこう言っていたよとかというようなことで、グループの友達との固定化を図ろうとする、そういった作用が働いているというふうなことが、これは私の経験からも言えるところではございます。</p>
石井委員	<p>いただいたのは3月31日までということなのですが、4月に入って学年が改まって、同じ子どもさん、あるいは同じ親御さんからの引き続いての相談というのはありますでしょうか。</p>
教育研究所長	<p>現在のところございません。</p>

石井委員	そうですか。ありがとうございます。
古巻委員	この数字なのですが、いわゆる、いじめられた側のほうの数字ですよね。いじめというのは、いじめる側のほうが文句なしに悪いことなので、その辺のところの数とかというのは出ています。いじめる数、いわゆる加害者というのですか。いじめられたほうは男と女と分けられて、高学年、低学年で分けられるけども、いじめた側はどうなのかというのは、そこまでは教育研究所としては把握されていますか。
教育研究所長	この1年、電話相談に関して申し上げますと、これはいじめられたと感じている者の主訴別に受け付けてございますので、これに関して、いじめた側の数字というのは特にとってございません。ただ、いじめ防止対策推進法にも示されているとおり、いじめはいじめられた側がいじめと感じた場合、それをいじめと認知するとなつてございますので、いじめられた者側の主張に基づいて、それを集約、判別していくこととなります。その際に、相手方がどういった対象であったのかということについては、その聞き取りの中で確認はしていくということにはなつてございます。
古巻委員	できれば、これちょっと不可能なのかもしれないけども、聞き取りでいろいろメモされる中に、そういうところをちょっと、聞かれる方のほうがメモか何かで、相手が男、年上、何年生というのが話の中でもってさっと出てきたら、そういうのがまとまってきていいのかなと。やっぱり、加害者が100%悪いと思うのです、私はね。その辺がちょっと気になるかな。いじめられた側の話だけを聞いて、どこまで解決していく糸口が見つけられるのかなというのは、一般的なあれはわかるとしても、何か言われっぱなし、いじめられっぱなしみたいな感じでパスというかスルーしちゃうのじゃないかなという気が、いつもこのいじめ電話相談の話を書くときには思っていたのですけども。
上野委員	いじめの中でこういうふうに電話が来るといふのは、やっぱり、いじめられているのだけど、見ている人たちが非常に無関心で助けてくれないというような。何か言うと、また余計やられると。ちくると。そういうような場合が、どうもこうやって電話でかかってくるのじゃないかなとは思いますが、一般論としては、大勢で少数をいじめたり、強い者が弱い者をいじめる。これは最も人間として卑怯だと言っているのですね。その卑怯な状態を

	<p>見ている、知っているにもかかわらず、何もしない。不作為。見てみぬ振りをする。これも卑怯。そういうことを教育している。</p> <p>いじめをなくすには、見ている人たちが見て見ぬ振りをしないで何らかの行動、直接でも、あるいは、その他に報告して助けてやるという、そういう雰囲気が出ないと、私はなかなか、今の状態ではいじめというのはなくなってしまうような気がするのですよ。ここでは何回も言っていますが、悪人にとって最も力強い味方は、ものを言わぬ善人だということ。これはいじめの根本だと、大人の世界でもそうなのですが、特に私は子どもではそう思うのですね。そのあたり、意見としてどうですか。</p>
蓮 沼 委 員	<p>学校現場でいじめに関していろいろ話をするときには、常にいじめる側が絶対的に悪いということと、いじめを見て見ぬ振り、傍観。傍観している人も、児童・生徒もいじめていることと同じだと、大して変わらないというような話をして指導はしていますよね。もちろん教育委員会からもね。絶対的にいじめられている側をもちろん守り抜くというようなことですよ。ただ、やっぱりいじめている側のほうにもしっかり教育的な配慮ということで、追いつめばかりじゃなくて気づかせる。そういった指導も大事だと思うのですね。直接いじめている人と、それを見て見ぬ振りをしている人。結局、何かそこで言ったら自分もいじめられるから、何も言えないとかということもありますよね。現場ではそういう指導とかもちろんしていますが、なかなか浸透しにくい。いざ、そういったときになったら、人間関係でちょっと言えないという子も、実際のところいるのじゃないですかね。</p>
上 野 委 員	<p>先生もそういうところに気を配るようにしている。そういう言えない雰囲気をどんどん増大してはいけないと思うので。それを何とかなくすようにする第一の役割は、直接当たっている先生方じゃないかと思うのですけどね。</p>
蓮 沼 委 員	<p>それに関しては、時々逆に、いじめている側と教師が大差ないようなことを言うてしまうこともあるじゃないですか。それが大きな問題になりますけどね。絶対にいじめられている側を守らなきゃいけない教師が逆に、いじめている児童・生徒と同じような気持ちになって言うてしまうとかというのは、一番情けないことですよ。一番子どもたちの支えになる先生がそういうことじゃ困るのだけでも、たくさんある中では、時々そういうのも、情けないのですけども、報告が出てきますよね。</p>

上野委員	<p>それで、一番私が嫌な言葉は、マスコミなんかで言われているように、それが全体的に、我々も含めて教育委員会、教職員の隠蔽体質。隠蔽体質という一言で言われてしまう。気になっているのです。</p>
教育研究所長	<p>今、委員の皆様にご指摘いただいたとおり、いじめは、いじめる側といじめられる側という二者構造ではなくて、いじめる側、いじめられる側、そして、それに対して傍観者という、そういった多層的な構造で行われているというふうに言われております。こういった物事に対して、やはりいじめを見て見ぬ振りをしないということについて、当然、学校で指導していただいておりますが、今お話にあったように、なかなか声に出せないお子さんもいるかと思えます。そういったことに対して、学校では今、年に3回のいじめについてのアンケートを行っている中で、いじめられているかどうかということと、それから、いじめられている人を見たかどうかということ。これも含めてアンケートを実施して、いじめの早期発見に努めているところでございます。</p>
上野委員	<p>アンケートの中に、あなたはいじめたことがあるかどうかというのをやってみたらどうですか。そういうのはないのですか。</p>
蓮沼委員	<p>そういうものもあります。あと、区教委のそういったものだけでなく、学校独自に毎月やっている学校もあるし。それこそ月2回やっている学校もありますから。そういったことをしっかりやっていけば、ああいった野田市なんかね、ケースは防げたのかなという可能性もありますね。</p>
上野委員	<p>野田市の事件で、私は一番残念だし、決して人には漏らしませんよと学校が約束していて、そして、勇気を出してあれだけの報告をしたわけですよね。それを破ったわけでしょう。本人はどう思ったかね。言わないと言ったから学校が頼りだと書いたのに、それが親のもとにいつちゃったから。それは一つ、子どもみたいに自分の字じゃないとか自分が書いたんじゃないとかとまた書かせられて。あのときの心境は、本当に痛ましくてならないので。あれは、要するに学校に出したアンケートが結局は余り守ってくれない、漏れてしまうということ、一般の子どもたちに知れたということは大きいですね。だから、アンケートっていい制度なのだけど、そこが信頼なかったらまた書かなくなるので。これは意識的に徹底したほうがいいと思うのですね。</p>

教 育 長	その他、よろしいでしょうか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
教 育 長	他になければ、ただいまの報告事項を了承いたします。 以上をもちまして、平成31年第8回教育委員会定例会を終了いたします。 閉会時刻 午後4時34分